

令和2年3月10日(火)に開催した「住宅防火対策推進懇談会」での住宅用火災警報器の設置、交換等に関するご意見等について。※本会議は、書面審議にて実施

- 住宅用火災警報器の交換の問題は、設置から何年経ったか分かっていない場合もあると思います。交換時期になったら、自動的に音声で交換を案内するような製品は無いでしょうか。
また、設置は天井になりますから、特に高齢者の場合、確認行為自体が危険にもなる(脚立や台に乗ること自体が危険)ので、何らかの対応は必要と思います。
- 連動型住警器の導入が今後の大きな課題であるとお考えで検討して頂いているように思われ、その通りだと思いますが、今後どのようにして進めるか、難しい面はありますが、買って使う側と制作して売る側との間の本音のやりとりをどうするか、できれば当事者間のお話合いが進むようにできないかなど思ったりします。
- 住宅防火対策としての火災警報器の設置義務化を進めるとともに警報器による効果および設置方法(お年寄りなどどうすれば設置できるか)等をより周知していくことが必要だと思います。
- 「住宅用火災警報器+CO警報器」の普及により、火災の早期発見で、高齢化の方々の逃げ遅れなどを防ぐ可能性が高くなると考えています。
今までもガス警報器等の普及にご協力頂いているガス事業者の皆様と「住宅用火災警報器+CO警報器」の普及、住宅用火災警報器の交換推進に努めて参りたいと思います。
- 住宅用火災警報器の設置義務化は住宅火災による死者数の減少に大きな効果を上げているが、たとえば一人暮らし高齢者世帯について、単独型・連動型・屋外警報装置型の有効性の違いがどの程度あるのか、消防署への直接通報型と比べてどうか等の比較検討も必要ではないか。
- 10年目を過ぎた住宅用火災警報器の取り換えがうまくいった地区の事例や、連動型住宅用火災警報器の普及に当たったの課題について意見交換をさせていただければと考えております。